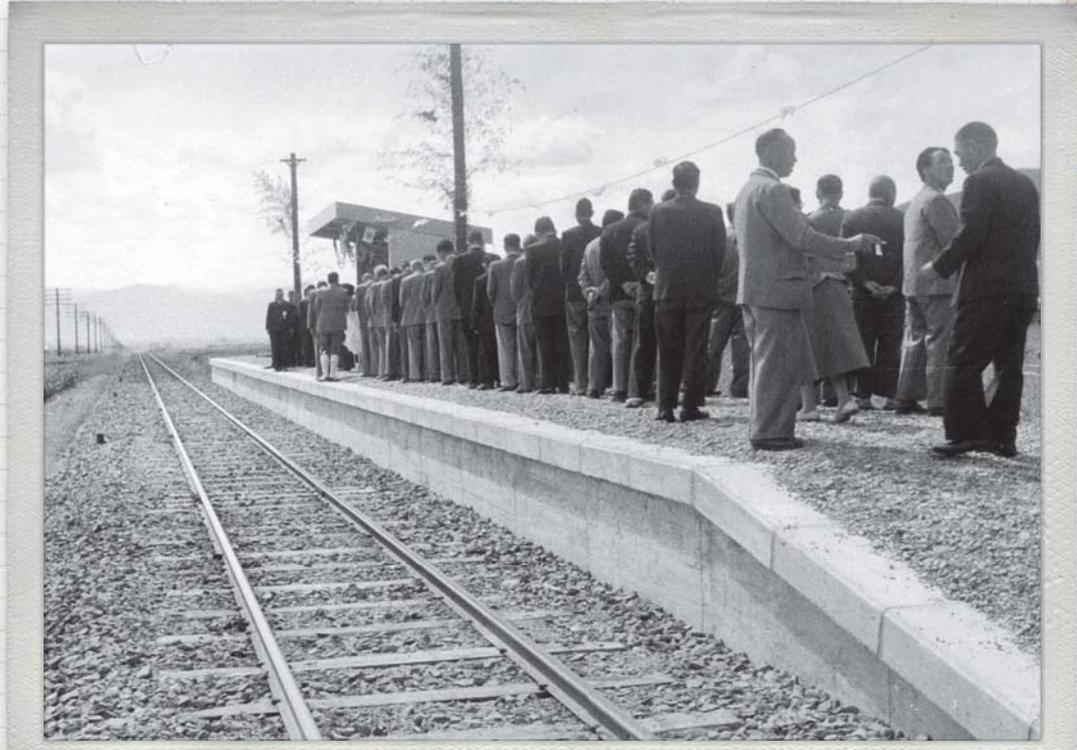




蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 20

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

比地大駅の開業
昭和32(1957)年・豊中町

比地大駅は、昭和32(1957)年10月1日に上高瀬・本山間に開業した。写真は開業記念式典の様子。昭和34(1959)年には上高瀬駅の改築・改名などもあり、この頃に国鉄の整備が大きく進展した。比地大駅は地元の要望で設置された駅であるため、電灯設備経費や待合所建設経費などは豊中町で負担した。

「思い出の1ページ」

「これは懐かしい写真が出てきたなあ」

松岡守さん(88)は、感慨深そうに話してくれました。

「駅がないときは本当に不便でした。私は国鉄に勤めていましたが、毎朝5時20分の汽車に乗るために、高瀬駅まで40分かけて歩いて行っていました。奥さんが4時に起きて朝ごはんを作ってくれましたが、当時はまだ薪でご飯を炊いていたから大変だったでしょうね。」

地元の強い要望を受けて、当時、比地大農協の組合長だった関黨さんが中心となって、駅を造る活動をしてくれました。関さんは、高松で会議があるごとに、何度も何度も国鉄に寄って、比地大に駅を造るよう陳情したんです。その熱心な活動のおかげで、やっと比地大駅ができたんですよ。

ほら、この写真、ホームが短いでしょう。これは、ガソリンカー1両きりの長さなんです。当時の比地大駅には蒸気機関車は止まらなかったんですよ。その後、地元の人の協力もあってホームが延長され、初めて蒸気

機関車が止まったのは、私の娘が小学校の修学旅行に行くときでした。比地大の駅から汽車に乗せてやりたくて「30秒でもいいから」と無理を言って頼み込んで、何とか止めてもらいました。時間がないから、子どもたちを各入り口に整列させて、一斉に乗せたのを覚えています。

本当に、駅ができてから便利になりました。関さんが、一生懸命に地元のために動いてくれたおかげだと思っています。駅に銅像を作ってあげたいくらい、感謝しています」

編集 後記



「コミュニティバスに乗りましようよ」気さくに話しかけてくださる乗客の皆さん。バスの運転手さんと乗客の方との温かいやりとり。三豊市ならではの光景に癒されました。広がる田園、いつもとちがう道。バスに乗って新しい発見をしてみませんか☆